

4月雑感・・どうしよう？

と悩んでいる間に、3月が半分以上過ぎてしまいました。

あまりにも怠け過ぎ・・と反省ですが、タイトルでごまかす案を思いつきました
よって今月は 「もうすぐ4月から・・・」 始めます。

もうすぐ4月ですね

私の様な昭和中華生まれの者は「モーすぐ♪は一る♪ですね」と
歌いたくなる季節です。この歌を歌った彼女たちは
「タレント」という雲の上の存在でした。

彼女たちの「普通の女の子に戻りたい」は

天使が地上に降臨してくる感があり同世代の男の達には
落胆と同時に「ひょっとしたら？僕だって」・・と

淡い期待も抱かせる程の衝撃を与えた昭和の名言の一つです。

昭和の時代は、芸能界という世界の住人は、地上の我々とは一線を画し特別な存在。

それが、平成の世になると、そのそれぞれの世界との一線がかなり曖昧になっていき

平成の終わりの現在は「普通の人」も一夜にして世界中の注目を集める時代となりました。

そして、平成も終わろうとしている、今この昭和の名言にも大きな疑問が生まれています

「普通の女の子に戻りたい・・って一体どんな子になるの？ 普通ってなに？」



普通を～らしいと言い換えると

これらの言葉には「らしいを保っている事がその枠の普通の中に在る正しい人」にも
つながっているというイメージを持たせているようです。

子どもらしい・女らしい・男らしい・母親らしい・年よりらしい・障害者らしい

でも、その「らしさ・らしい」に制約を受けてきた事で、本当の自分との乖離に戸惑い
生きてきた人が、実はとても多かったのではないのでしょうか？

一度その「普通・らしい」という古い基準そのものを一度とっばらってしまう

必要があるのではないのでしょうか？

そうする事によって、初めは戸惑いもあるけど、心づもりもできるし、世界を見る広がりや
それぞれの可能性も広がってくるのではないのでしょうか？

普通あるいは「常識」と言う基準は「はい今日から一斉に変更します。変わります！」と

言う訳にはいきません。それぞれの中にあるものですから・・自分を変える必要があります。

元号変更が、社会にどれだけの意味があるかはわかりませんが、古い物を捨てられないタイプや
アップデート能力にける高齢者（私です）には、物の見方や感じ方を変える為の

「きっかけや弾み」くらいにはなるかな？と思います。

そんな事を考えながら、呆れかえる程多数ある

「元号変更に係わる諸書類の変更行政指示通達・マニュアル資料」
を読んでいる

もうすぐ4月の3月18日28時です。

